



- 講師：牛田 肇
(武蔵野デジタル出版株式会社 代表取締役)
- 日時：2017年7月1日(土)9:00~17:00
- 会場：森の共育実修所「点塾」
- 参加人数：6名

[プログラム]

- 本を書く目的
- 読まれる本づくりの法則
- 伝わる文章の書き方
- 出版の4つの選択肢
- 出版の活かし方

本の書き方をと出版の活かし方を学ぶ 本の書き方講座 後編

特別講座「本の書き方講座 後編」は前編に引き続き武蔵野デジタル出版株式会社代表の牛田肇さん。東京都武蔵野エリアで自費出版のプロデュースをされている方です。「売れるため」の自費出版セミナーは数ありますが、「想いを伝えるため」の本の書き方セミナーは一つもなかったとの事で、独学で勉強をされ2013年6月に事業を立ち上げられました。今では180期、800人以上が参加した人気講座となっています。

前半は本を書く目的を丁寧に説明していただきました。その後、今の出版業界事情やトレンド、出版社に本を持ち込むときの企画の立て方を、実例をもとに教えていただきました。実習では「実際に自分が本を出すとしたら」というテーマで企画を立て、終盤には「本を書くことで広がる可能性」として、これまでの様々な自費出版事例のご紹介がありました。

自分の中にある大切な想いを本に託して頒布することで、新たな出会いが生まれます。出版というと有名人・著名人がするものという思い込みがありますが、これからは誰もが出版できる時代なのだと感じました。



[講師より]



武蔵野デジタル出版株式会社
代表取締役
牛田 肇

7月1日(土)の2日目は、9時から17時まで「本の書き方と出版の活かし方」を開催。出版が身近になった昨今、どのような?何のため?を明確にした本が求められるようになり、その考え方・進め方をお話しました。

「ご自身の本の企画をしてみましょう」と、興味を持ってもらえる・想いが伝わる・出版される出版企画ワークを行いながら学んで頂きました。今回は、参加者の企画内容も発表頂き、自分史や趣味など、企画の時点で興味深い個性が出され、私自身も参加者の企画をブラッシュアップする観点も入れながらの進め方となり、通常よりもリアル感が増しました。

また、「感受性を言葉にする」ワークで、例題で本のタイトルを考案するのですが、同じ会社の参加者同士が、ほぼ一致するタイトルを発表。私も初めてのケースで驚きました。よほど似た者同士の社員さんなのですね。



CHECK OUT CARD

書籍出版の
夢が広がりました。

CHECK OUT CARD

「街の書店が少なくなる」
そんな危機感を感ずる
この頃です。
利便性に対処する
には、素直に書店に
足を回す必要が
ありそうです。

CHECK OUT CARD

誰にも本を書ける
大切なことは
シンプルだった

CHECK OUT CARD

文章は先立つ
ものとして
まず思いが
スチと伝わき
ました。

CHECK OUT CARD

伝わりから文章、
作りかたから文章。
むしろ聞けと
感じました!!

CHECK OUT CARD

業務に活かせる
内容を
たくさん教えて
いただきました。
ありがとうございました。

